



「子どもの村に『家族の家』一棟を！」ご協力のお願い

拝啓、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、ご存知のとおり、昨今、様々な事情で家族と暮らせない子どもたちが増え続け、児童相談所の一時保護所もいっぱい状況が続いております。

このような子どもたちに対して、我が国では乳児院・児童養護施設などの施設養護、里親などの家庭的養護の制度がありますが、諸外国と異なり、子どもたちの90%が施設で育っており、さらに、虐待やネグレクトを背景にもった子どもたちへの心のケア、治療的な養育が十分にはできていません。

国もこのような状況に関して、「家庭的環境で、地域で育てる」という基本的な考えのもと、里親制度の充実や施設の小規模化などの取り組みを始めていますが、子どもたちの実情に追いついていないのが現状です。

「子どもの村福岡を設立する会」は、「すべての子どもに家庭を」をスローガンにして世界に広がるNGO「SOSキンダードルフ」の理念に学び、我が国で初めての「子どもの村」の設立を目指して2006年7月に発足、今日まで準備を進めて参りました。

「子どもの村福岡」では、子どもたちは里親登録をした「育親」に守られ、地域の中で育ちます。5棟の「家族の家」、そして、村長やスタッフ、専門家チームによるサポートの中心となる「センターハウス」を作ります。

福岡市から建設地の貸与を受け、また地元経済界の後援会、さらに、多くの市民の皆様からの支援を受け、現在ようやく、計画遂行の見通しがたったところです。

しかしながら、折からの経済状況の悪化の中、村の建築費と開村後の運営資金の確保は極めて厳しく、まだ十分とはいえない状況です。特に「家族の家」の建築に関して、4棟の見通しを得たものの、5棟目の資金の目途が未だにたっておりません。

このような中で、「小児科医で一棟の家を！」とのご提案をいただき、世話人会が発足し、このようなお願いへと発展いたしました。

子どもにとって、温かく、愛情に包まれた家庭環境ほど大切なものはありません。この活動は、「社会的養護の子どもたちに、家庭的環境での育ちを」という活動ですが、「すべての子どもが、幸せな子ども期を送り、人にやさしい社会をつくる市民に成長してほしい」との小児科医の願いを、社会にアピールすることにもなることと思います。

「この子たちを忘れては、人類の未来はないでしょう」とは、1949年、オーストリアでSOSキンダードルフを創設したヘルマン・グマイナーの言葉です。彼もまた、当時若き医学生でした。どうぞ、多くの皆様のご賛同とご支援をお願いいたします。

ご協力お願いの内容は次の通りでございます。

「家族の家」一棟を小児科医の手で実現するために、ご寄付をお願いいたします。

小児科医による「家族の家」一棟の建築資金

募金目標 1500万円

1口 1万円 (開業医はできる限り3口以上をお願いします)

子どもの村福岡は、「認定NPO法人」の認定を受けました。この法人にご寄付いただきますと税制上の優遇が得られます。

(個人が認定NPO法人に寄付をされた場合、所得税の計算において、寄付金の額から5000円を差し引いた額が、所得金額から控除されます。つまり、この分には所得税が課税されません。)

別紙「寄付申し込み書」にご記入いただき、事務所あてFAXください。
どうぞよろしくご高配のほどお願い申し上げます。

2009年9月吉日

子どもの村福岡を支援する小児科医の会 世話人 (順不同)

代表 豊原 清臣 (豊原小児科医院)
大山 幸徳 (大山小児科医院)
井上賢太郎 (賢寿会 井上小児科医院)
高崎 好生 (高崎小児科医院)
下村 国寿 (下村小児科医院)
進藤 静生 (しんどう小児科医院)
岡田 賢司 (国立病院機構福岡病院)
吉田ゆかり (よしだ小児科医院)
津川 信 (津川小児科医院)
竹中 伸一 (竹中小児科医院)
原口 憲二 (原口小児科医院)
原 寿郎 (九州大学病院小児科)
松石豊次郎 (久留米大学病院小児科)
廣瀬 伸一 (福岡大学病院小児科)
楠原 浩一 (産業医科大学)

(特)子どもの村福岡
理事長 満留 昭久
副理事長 坂本 雅子
顧問 松本 壽通
監事 福重淳一郎

連絡先

(特)子どもの村福岡 住所:福岡市中央区赤坂 2-3-1

TEL: 092-737-8655 / FAX: 092-737-8665

Email: fukuoka@cv-f.org URL: <http://cv-f.org>